

新宮山彦ぐるーぷ第1966回

持経宿・平治宿の巡回(雨水槽の貯留と救急・非常食の補充など)

◇実施日2018年03月11日(日) 快晴

◇参加者：豊嶋 寛、川島 功、沖崎吉信、生熊敏男・千満子、

児嶋道夫、大江加予子、畑林清子、高階美根子、

竹中卓治、奥村順夫、村吉光夫、梶野照雄。 13名。

沖崎車(生熊夫妻・豊嶋同乗)、川島車(児嶋・畑林・大江)にて新宮7時半に発ち、池原スポーツ公園駐車場に8時40分前に着くと、奥村車(竹中・高階)、村吉車、梶野車が既に到着。

沖崎車、村吉車、梶野車に分乗し、土・日を除く時間制限通行止め(林道口より2km先)の林道池郷線へ。通行止めコーンを除け、支谷橋を渡ると直ぐに(約1km地点)、左のコンクリート吹付け斜面が土砂崩れし、ガードレール迄道幅一杯に崩落土砂が塞いでいる。夜半に崩れた様で、上部から今にも崩れそうな気配である。



池原スポーツ公園Pで合流

林道池郷線土砂崩れ

上部は崩れそうだ!

予期せぬ落石に遭い、天候も良いので全面通行止めが解除になった国道425線の白谷トンネルを抜け、土砂崩れ・落石で走行出来るか判らないが、白谷林道から持経宿へ行く事にする。9時40分に白谷林道のゲート鍵を開け進むと、車が通っている跡があるが道が荒れている。営林小屋から右の林道へと登り出すと、斜面から落ちた落石が多くなり手で除けながら辿ると、車が駐車している、溪流釣の人の車だろう。

その先に大きな落石があり、大ハンマーで割り、割れそうでない巨石は大バール・くい丸をテコ棒にして路肩に寄せる。

1〜2分も走ると落石があり除けねばならない。又、日陰地点の落石は凍結で除けるのに少し力がある。中々進まないのが先頭の村吉車は、少々の落石を除けず多少無理して走行し、後に続く車の方に除けて貰う事にする。

落石の多い箇所もあり、直ぐに後続車が追い着き、皆で取除く、豊嶋さんは小走りに歩いて落石を除けて下さる。



白谷林道ゲート



皆で落石を除く



11時半前によくやく平治谷(7.5km)を過ぎる。この地点迄昨秋に村吉さんが偵察に来られたので、なんとか12時頃に持

経宿に着けそうに思われる。道は荒れているが除ける落石も少なくなり、12時05分に持経宿にようやく到着。約10kmの林道を走行するのに二時間半要した。車高の高い車と大勢で落石を取除けられたお陰であり、少人数ではあきらめたことであろう。



皆で力合わせて落石を除去する

平治宿のバッテリーを交換するとの事から、急いで昼食にする。小屋前のベンチは、小屋で風が避けられ、陽もあたり暖かい。



持経宿に到着

小屋前のベンチで昼食

奥村・生熊敏さんは、千年檜先でシキミを採り戻られる。大江・畑林さんは、貯水槽の清掃と大江さん水汲み後に二人で平治宿へ、途中合流して引き返すと遅れて出発された。

居残り組は、川島・沖崎・生熊敏・奥村氏の4名である。

ベンチ裏の転落防止用ロープの木杭(POST)設置は、地中部位が腐朽で触れば倒れるので、木杭に沿ってパイプ鋼管の「くい丸」を打ち込み、木杭をくい丸に被服線にて3箇所固定。くい丸と土止め桟木は、番線で締め固定する。

沖崎氏は、くい丸の打ち込み手伝った後、北側の貯水槽の貯留宿内を整理し持帰る不要品を集めて下さった。その後、二人で小屋周りの雑木をチェーンソーで小切り薪作りをする。

生熊さんは、西側斜面の風倒木をチェーンソーで切除、4人で斜面から太い部位をロープで曳き上げ薪に小切り、薪小屋に積み込む。その後、生熊さんはトイレの汲取りをして下さるが、散布は小屋近くの斜面の為、臭いがキツイので、今後パイプ等で斜面下部に汲み流す手段を講じたい。



くい丸に木杭固定



風倒木を曳き上げ薪に



トイレの汲み出し

雨トユ網上の落葉は、箒で払い落とし、14時半過ぎに作業が終了し平治宿班の帰りを待つ。平治宿班は、持経宿に15時10分に戻られた。

村吉さんは、平治宿と同様に非常食の補充と救急箱を点検して、次回補充品のリストアップして下さる。

全員で記念撮影後、15時20分に下山する。帰路林道は、約50分強だったが、何よりもパンク無く降りられ安堵した。

16時45分に池原スポーツ公園駐車場に戻り、本日の労いと次回行事予定連絡等の終礼を行い解散する。



池原スポーツ公園Pで終礼

行動タイム

8:35池原スポーツ公園P8:47→8:52池郷林道崩落地点→9:15浦
向→9:40白谷林道ゲート→12:05持経宿12:35→各班作業→
15:10持経宿15:20→白谷林道ゲート16:15→16:45池原スポーツ
公園17:00(解散) (記:川島・写真:梶野・川島)

平治宿巡回班(豊嶋・村吉・児嶋・竹中・梶野・生熊千・高階)
持経宿到着は、池郷林道の予期せぬ落石に遭い、白谷林道への
迂回と落石が多いトラブルで予定より大きく遅れました。

小屋内・外でマチマチに慌しく昼食後、平治宿巡回班7名は、
歳の割に非常に元気な豊嶋さんを先頭に出発。

千年檜を過ぎ尾根に出ると西寄りの風が強く冷たい！歩い
ても汗はかくことが無い。天気は快晴ですが風が問題・・・。
中間点付近に「平治宿25分・持経宿25分」の標識1枚取付。

何とか平治宿に13時35分に到着。トイレ水洗用のドラム
缶と雨水槽への貯留は、梶野さん等にまかせる。



千年檜にて



非常食補充と救急箱点検



バッテリー交換作業



トイレ水洗用の雨水ドラム缶設置



バッテリー交換作業



バッテリー交換と器機の測定をする。前々回の玉置山駐車場
売店で、青木さんから平治宿の電灯は、20分程で点かなくな
ると言われていたので、今回20Ah容量のバッテリー(重量7

kg)を7Ah(重量3kg)に交換する事にした。持帰って計って見ると1.1Ahで、性能は約18分の1に低下していた。

今回設置したバッテリーは、容量が7Ahと小さいが、新しいので6WのLED2灯では、7時間点灯する計算になります。

ソーラパネルは50Wの物なので、バッテリーはもっと大きくても良いが、大きいバッテリーは重くて持込が大変であり、今手持ちが無いので仕方が無く、当面使用に耐えられると思う。

村吉さんは、非常食の補充と救急箱を点検し、次回補充のリストアップをされた。その後、水場に行かれた。

竹中さんは、水場の点検とポリタンクの給水へ。水場の貯水鉄箱は、年末の底液え後土石の流入が殆んど無く綺麗であったとのこと。女性陣は外廻りの清掃をして下さる。

今回、豊嶋さんにコーヒーを作って貰った後、全員で記念撮影して直ちに持経宿へ下山する。



平治宿の水場



水場径は補修要



平治宿巡回班

出発直前に大江、畑林さん達が合流し、一緒に下山する。梶野さん達は、千年檜手前の鞍部から池郷林道へ降りて迎ると、三叉路迄4箇所落石しており、池郷林道も落石箇所が頻発して

いる事が想定された。



中又尾根分岐



千年檜下の池郷林道の落石



持経宿で本日参加者

行動タイム

持経宿12:40↓千年檜12:50↓標識取付け13:05↓13:35平治宿
14:25↓中又尾根分岐14:40↓15:10持経宿。

(記：児嶋、写真：梶野)

寄贈

・児嶋道夫； バッテリー(7Ah)1個。